

ダイズ病害虫防除対策（８・９月）

１ 紫斑病

- (１) 本病は、葉や葉柄、莢に紫黒褐色の不整形病斑を形成します。種子においては、へそを中心に紫色の病斑が拡大し、品質に影響を与えます。
- (２) 薬剤防除は、開花後 20～40 日頃に 1～2 回実施してください（表 1、表 2）。薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同一系統の薬剤の連用はさけてください。
- (３) 収穫の遅れや収穫後の放置で被害が増加するため、適期収穫と速やかな乾燥・調製を心がけてください。

表 1 紫斑病の防除薬剤（地上散布）

薬剤名	有効成分名	RAC コード	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10a 当たり使用量	本剤の 使用回数	使用方法
アミスター トレボン S E	エトフェンブロックス	3 A	収穫 14 日前まで	1,000 倍 (100～400L)	2 回以内	散布
	アゾキシストロビン	11				
ニマイバー 水和剤	ジエトフェンカルブ	10	収穫 14 日前まで	1,000～ 2,000 倍	4 回以内	散布
	ベノミル	1				
プランダム 乳剤 25	ジフェノコナゾール	3	開花後～ 収穫 7 日前まで	3,000～ 5,000 倍	2 回以内	散布
トライトレボン 粉剤 D L	エトフェンブロックス	3 A	収穫 14 日前まで	3～4 kg	2 回以内	散布
	テブフロキン	U16				

注 1) 特記のない場合、地上散布の水和剤、乳剤は 10a 当たり 100～300 L 散布する。

注 2) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

表 2 紫斑病の防除薬剤（無人航空機散布）

薬剤名	有効成分名	RAC コード	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10a 当たり使用量	本剤の 使用回数	使用方法
アミスター 20 フロアブル	アゾキシストロビン	11	収穫 7 日前まで	16～24 倍 (0.8L)	2 回以内	無人航空機 による散布
アミスター トレボン S E	エトフェンブロックス	3 A	収穫 21 日前まで	8 倍 (0.8L)	2 回以内	無人航空機 による散布
	アゾキシストロビン	11				
ニマイバー 水和剤	ジエトフェンカルブ	10	収穫 14 日前まで	8～16 倍 (0.8L)	4 回以内	無人航空機 による散布
	ベノミル	1				
プランダム 乳剤 25	ジフェノコナゾール	3	開花後～ 収穫 7 日前まで	16～24 倍 (0.8L)	2 回以内	無人ヘリコプター による散布

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

2 ベと病

- (1) 本病は、降雨の多い6～7月と9月に多発します。葉表に黄白色の不整形病斑が発生し、病斑の裏には淡灰色の綿毛状の菌叢ができます。発生が多いと生育抑制や落葉がみられ、減収の原因となります。
- (2) 「里のほほえみ」などの罹病性の高い品種では、生育初期から発生がみられる場合があるため、密植や過繁茂で通気性が悪くならないように注意してください。
- (3) 薬剤防除は、発生初期から7～10日おきに実施してください(表3、表4)。

表3 ベと病の防除薬剤(地上散布)

薬剤名	有効成分名	FRAC コード	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10a 当たり使用量	本剤の 使用回数	使用方法
アミスター20 フロアブル	アゾキシストロビン	11	収穫7日前まで	2,000倍	2回以内	散布
ザンプロDM フロアブル	アメトクトラジン	45	収穫7日前まで	1,500～ 2,000倍	3回以内	散布
	ジメトモルフ	40				
ライメイ フロアブル	アミスルブロム	21	収穫7日前まで	2,000倍	3回以内	散布
ランマン フロアブル	シアゾファミド	21	収穫7日前まで	1,000～ 2,000倍	3回以内	散布
リドミル ゴールドMZ	マンゼブ	M03	収穫45日前まで	500倍	3回以内	散布
	メタラキシルM	4				

注1) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

注2) 特記ない場合、地上散布のフロアブル剤、水和剤は10a当たり100～300L散布する。

表4 ベと病の防除薬剤(無人航空機散布)

薬剤名	有効成分名	FRAC コード	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10a 当たり使用量	本剤の 使用回数	使用方法
ザンプロDM フロアブル	アメトクトラジン	45	収穫7日前まで	8～16倍 (0.8～1.6L)	3回以内	無人航空機 による散布
	ジメトモルフ	40				

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

3 アブラムシ類

- (1) ジャガイモヒゲナガアブラムシは、わい化病の病原であるダイズわい化ウイルスを媒介することがあります。ダイズアブラムシやマメアブラムシは、多発すると葉に黄色の吸汁痕が多くみられ、葉の萎縮などが発生します。
- (2) わい化病が発生したことのあるほ場では、有翅虫飛来初期から薬剤防除を行ってください。それ以外のほ場では、葉に黄色の吸汁痕が目立つ場合は防除を行ってください(表5、表6)。

表5 アブラムシ類の防除薬剤(地上散布)

薬剤名	有効成分名	IRAC コード	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度 (散布液量)	本剤の 使用回数	使用方法
エルサン乳剤	P A P	1 B	収穫7日前まで	1,000～ 2,000倍	2回以内	散布
オルトラン水和剤	アセフェート	1 B	収穫60日前まで	1,000倍	3回以内	散布
ダントツフロアブル	クロチアニジン	4 A	収穫7日前まで	2,500～ 5,000倍	3回以内	散布
マラソン乳剤	マラソン	1 B	収穫7日前まで	1,000～ 3,000倍	3回以内	散布

注1) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

注2) 特記ない場合、地上散布の乳剤、水和剤、フロアブル剤は10a当たり100～300L散布する。

注3) オルトラン水和剤は使用時期が収穫60日前までなので、使用時期に注意する。

表6 アブラムシ類の防除薬剤（無人航空機散布）

薬剤名	有効成分名	IRAC コード	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度 (散布液量)	本剤の 使用回数	使用方法
オルトラン水和剤	アセフェート	1 B	収穫 60 日前まで	16 倍 (1.6 L)	3 回以内	無人航空機 による散布

注1) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

注2) オルトラン水和剤は使用時期が収穫 60 日前までなので、使用時期に注意する。

4 ツメクサガ

- (1) 本種の第2世代幼虫は、8月中下旬に発生します。この時期の被害は、葉のほかに莢や子実をえぐったように食害します。
- (2) 幼虫の虫齢が進むと加害量が急激に増加するため、食害が見られたら速やかに薬剤防除を行ってください(表7)。

表7 ツメクサガの防除薬剤

薬剤名	有効成分名	IRAC コード	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度	本剤の 使用回数	使用方法
エ ル サ ン 乳 剤	P A P	1 B	収穫 7 日前まで	1,000 倍	2 回以内	散布

注1) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

注2) 乳剤は 10a 当たり 100～300 L 散布する。

5 ウコンノメイガ

- (1) 本種の幼虫は、7月下旬頃から発生し、葉を円筒状に巻き食害します。多発すると登熟に影響します。
- (2) 葉色が濃く、株が繁茂しているほ場では、被害が大きくなる傾向にあります。ほ場によって発生状況が異なるため、よく確認してください。
- (3) 葉巻の発生が目立つ場合は、若齢幼虫の多い7月下旬～8月上旬に薬剤防除を行ってください(表8)。

表8 ウコンノメイガの防除薬剤

薬剤名	有効成分名	IRAC コード	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度	本剤の 使用回数	使用方法
ス ミ チ オ ン 乳 剤	M E P	1 B	収穫 21 日前まで	1,000 倍	4 回以内	散布

注1) 乳剤は 10a 当たり 100～300 L 散布する。

注2) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

6 フタスジヒメハムシ

- (1) 成虫は、葉や未熟莢を食害します。莢の表面が食害されると加害部が変色し、子実に黒斑が生じ、腐敗粒となり品質を低下させます。
- (2) 薬剤散布は、子実肥大期（9月上～下旬頃）に実施してください（表9）。

表9 フタスジヒメハムシの防除薬剤

薬剤名	有効成分名	IRAC コード	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10a 当たり使用量	本剤の 使用回数	使用方法
アルバリン顆粒水溶剤	ジ ノ テ フ ラ ン	4 A	収穫7日前まで	3,000 倍	2回以内	散布
アルバリン粉剤DL	ジ ノ テ フ ラ ン	4 A	収穫7日前まで	3 kg	2回以内	散布
スタークル液剤10	ジ ノ テ フ ラ ン	4 A	収穫7日前まで	1,000 倍	2回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	ジ ノ テ フ ラ ン	4 A	収穫7日前まで	3,000 倍	2回以内	散布
スタークル粉剤DL	ジ ノ テ フ ラ ン	4 A	収穫7日前まで	3 kg	2回以内	散布
ダントツ水溶剤	クロチアニジン	4 A	収穫7日前まで	2,000～ 4,000 倍	3回以内	散布

注1) 特記ない場合、地上散布の顆粒水溶剤、液剤、水溶剤は10a当たり100～300L散布する。

注2) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

7 吸実性カメムシ類

- (1) 本種は、開花期（7月下旬～8月上旬）以降に飛来して莢や葉に産卵し、幼虫や羽化成虫が黄熟期まで長期にわたって加害します。子実肥大の初期に加害されると、種子がほとんど肥大しなくなります。中期以降に加害されると変形、変色した子実となり、商品性が著しく低下します。
- (2) 薬剤散布は、着莢期～子実肥大盛期に1～2回行ってください（表10、表11）。

表10 吸実性カメムシ類の防除薬剤

薬剤名	有効成分名	RAC コード	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10a 当たり使用量	本剤の 使用回数	使用方法
ア ミ ス タ ー ト レ ボ ン S E	エトフェンプロックス	3 A	収穫14日前まで	1,000 倍 (100～400 L)	2回以内	散布
	アゾキシストロビン	11				
アルバリン 顆粒水溶剤	ジ ノ テ フ ラ ン	4 A	収穫7日前まで	2,000 倍	2回以内	散布
スタークル液剤10	ジ ノ テ フ ラ ン	4 A	収穫7日前まで	1,000 倍	2回以内	散布
スタークル 顆粒水溶剤	ジ ノ テ フ ラ ン	4 A	収穫7日前まで	2,000 倍	2回以内	散布
スミチオン乳剤	M E P	1 B	収穫21日前まで	1,000 倍	4回以内	散布
ダントツ フロアブル	クロチアニジン	4 A	収穫7日前まで	2,500～ 5,000 倍	3回以内	散布
トレボン乳剤	エトフェンプロックス	3 A	収穫14日前まで	1,000 倍	2回以内	散布
トライトレボン 粉剤DL	エトフェンプロックス	3 A	収穫14日前まで	3～4 kg	2回以内	散布
	テブフロキン	U16				

注1) 特記のない場合、地上散布の顆粒水溶剤、液剤、乳剤、フロアブル剤は10a当たり100～300L散布する。

注2) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

表 11 吸実性カメムシ類の防除薬剤（無人航空機散布）

薬剤名	有効成分名	RAC コード	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10a 当たり使用量	本剤の 使用回数	使用方法
スタークル液剤 10	ジ ノ テ フ ラ ン	4 A	収穫 7 日前まで	8 倍 (0.8 L)	2 回以内	無人航空機 による散布
トレボンエアー	エトフェンプロックス	3 A	収穫 14 日前まで	8 倍 (0.8 L)	2 回以内	無人航空機 による散布
ア ミ ス タ ー	エトフェンプロックス	3 A	収穫 21 日前まで	8 倍 (0.8 L)	2 回以内	無人航空機 による散布
トレボン S E	アゾキシストロビン	11				

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

8 マメシクイガ

- (1) 本種は、土中に繭を作り越冬するため、連作を続けると発生量が急激に増加します。3年以上の連作はさけ田畑輪換を行ってください。
- (2) 成虫は、年1回、8月中旬頃に羽化します。日長時間に反応して発生するため、発生時期は年ごとに大きく変動しません。羽化成虫は、8月下旬～9月中旬に莢に産卵し、幼虫が種子を加害して20日程度で脱出し、土中に繭を作ります。
- (3) 3年以上連作しているほ場やその周辺では、8月5半旬頃の薬剤防除を基本とし、多発が予想される場合には、9月1～2半旬にも追加防除を行ってください（表12、表13）。

表 12 マメシクイガの防除薬剤（地上散布）

薬剤名	有効成分名	RAC コード	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10a 当たり使用量	本剤の 使用回数	使用方法
ダイアジノン粒剤 5	ダ イ ア ジ ノ ン	1 B	収穫 30 日前まで	4～6 kg	4 回以内	散布
プレバソン フロアブル 5	ク ロ ラ ン トラニリプロール	28	収穫 7 日前まで	4,000 倍	2 回以内	散布
トライトレボン 粉 剤 D L	エトフェンプロックス テ ブ フ ロ キ ン	3 A U16	収穫 14 日前まで	3～4 kg	2 回以内	散布

注1) 地上散布の場合、フロアブル剤は10a当たり100～300L散布する。

注2) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

表 13 マメシクイガの防除薬剤（無人航空機散布）

薬剤名	有効成分名	RAC コード	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10a 当たり使用量	本剤の 使用回数	使用方法
プレバソン フロアブル 5	ク ロ ラ ン トラニリプロール	28	収穫 7 日前まで	16～32 倍 (0.8 L)	2 回以内	無人航空機 による散布
ア ミ ス タ ー	エトフェンプロックス	3 A	収穫 21 日前まで	8 倍 (0.8 L)	2 回以内	無人航空機 による散布
トレボン S E	アゾキシストロビン	11				

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

※農薬の登録内容については慎重に校閲していますが、登録内容の変更は随時行われています。また、同じ農薬名でも農薬会社によって登録内容が異なることがありますので、農林水産省のホームページ (<https://pesticide.maff.go.jp/>) 等で最新の登録内容を確認してください。（記載中の登録内容は令和7年8月1日現在）

- ◆ 福島県では6月10日から9月10日まで令和7年度農薬危害防止運動を実施しています。
- ◆ 農薬を使用する際は、ラベルをよく読んで正しく使用しましょう。
- ◆ 無人航空機で農薬を散布する場合、散布前に養蜂飼育情報の確認、散布計画の周知を行いましょう。

●情報内容への質問は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）まで御連絡ください。

TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727